

6月8 - 12日週のユーロ円レビュー

June 15, 2009

138円台に定着しきれず

High : 138.33円 Low : 135.70円

Close : 137.96円

アイルランド格下げを受けて欧州通貨売りが先行。しかし米早期利上げ観測の後退から、徐々にドル売りが優勢となり、ユーロ円は138円台への定着を試す展開に。だが、欧州指標の弱さも足かせとなり、上値が抑制された。

6/8(月) 136.94円

下落。アイルランド格下げを受けてユーロ売りが先行。ただ、米株が上昇をすると各通貨が対ドル・対円での買戻しで反応。ユーロ円は136円割れから137円近辺に戻して引けた。

6/9(火) 137.06円

上昇。前週末の米雇用統計後に高まった米早期利上げ観測が後退。ユーロドルはショートカバーで一時1.41ドルを回復。本邦機関投資家の売りで136円割れとなっていたユーロ円も137円台を回復して引けた。

6/10(水) 137.50円

上昇。アジア株が堅調となるなかクロス円買いが優勢となり、ユーロ円は一時138円前半へ。しかしロシアが外貨準備の一部をIMF債に振り分けると述べたことから米債利回りが上昇。為替はこれにドル買いで反応し、ユーロドルが下落。ユーロ円も137円割れまで反落する場面が見られた。

6/11(木) 137.86円

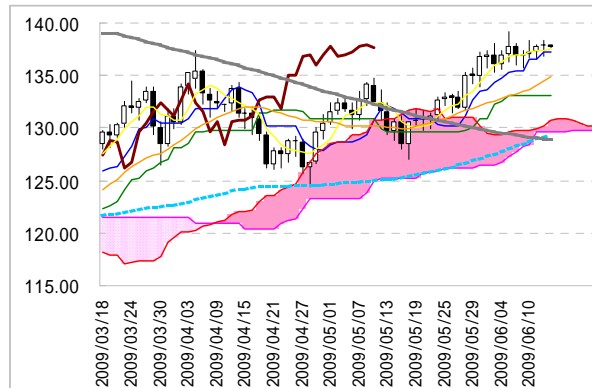
上昇。ユーロ円は、買い先行となっていたユーロドルの反落を受けてもみ合いを下放れ、一時136円半ばまで下振れした。しかし国際機関によるレートチェックの噂を背景として、対CHF中心にユーロが反発。米10年債利回りが4%をつけてピークアウトするとドル売りも優勢となり、ユーロドルは一時1.41ドル後半へ。ユーロも138円にワンタッチした。

6/12(金) 137.96円

上昇。ユーロ圏鉱工業生産が前年比-21.6%と、前年ベースで過去最大の落ち込みを記録し、ユーロ円は一時137円割れ。ただ、引けにかけては138円近辺まで反発した。

月日	High	Low
6/8(月)	138.00円	135.98円
6/9(火)	137.33円	135.70円
6/10(水)	138.33円	136.69円
6/11(木)	138.00円	136.59円
6/12(金)	138.30円	136.88円

ユーロ円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

141.04 (月足一目均衡表・基準線)

139.26 (6月5日高値 = 年初来高値)

==== 先週末のNYクローズ 137.96円 =====

135.29 (6月3日安値)

133.89 (6月1日安値)

欧州の重要指標結果

6/8(月) [結果] (前回)

独4月製造業受注 [±0.0%] (+3.7%)

6/9(火) [結果] (前回)

独4月鉱工業生産 [-1.9%] (+0.3%)

6/10(水) [結果] (前回)

独5月消費者物価指数・確報値(前年比)

[±0.0%] (±0.0%)

伊1-3月期GDP・確報値

(前期比) [-2.6%] (-2.1%)

(前年比) [-6.0%] (-3.0%)

6/12(金) [結果] (前回)

ユーロ圏4月鉱工業生産 [-1.9%] (-1.4%)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 135.29 - 141.04円

ユーロ円は、ドル伸び悩みの地合いを背景にユーロ買いが優勢となれば、今週一時137.46円以上まで上昇する見込みの転換線を支えに、年初来高値更新をうかがうことが想定される。ただ、買いの勢いに欠けると、転換線の上昇が、ローソク足の同線下抜けによるテクニカル面での売り示唆を招きやすくなることは両刃の剣。転換線を割り込んでくるようであれば、9日安値135.70円の下抜けをうかがうことになる。